

なつかしの今川やき

甲子三年だつた

~~高岡寺~~ 高岡寺の駅近くで今川やきを売つて

りた 寺のわしいつらい思い出

夜はさむい 北風が吹く中 結電車から

下車する人がお暮らつた

あつくの今川やきを新聞紙のフクロに

入れ手を入してお金をいれおく

結電車の一階で売居

新報のこつた材料 炭 ころも 機鉄板

を携つて炭をかえまつた

学校かうかえると毎晩今川やき

その今川やきが大変な量のこちをさうさう

どり候 たらつていた

おいしそゆう今川やきがのつている

いつても その中から注文していよが 今川

やきか目にはあつた

何が何でもおごテン物をしん

七十年^ね前^{まへ}の 昔の光景が目にあふ

その思い出を昔有でまつた 当時は小学校

二年生の様だ

デレワで今川やその話をしな

ふたりトライと本所をみ水

二人若 元気だよ

陽木去来へのぼろれしい

なす氏が出るほどろれしい

フシかこの日々か うそのふりうだ

トレ ~~森~~ ぶこの生活 ~~を~~ 経験す ~~と~~

至ま乙行く勉強はなうていゝ 片がだ

2021
6/19